

阿蘇の文化

阿蘇の人々の文化は、火山や周辺の自然環境と密接に関連しています。カルデラに人が暮らしていたという証拠は、約3万年前に遡り、縄文時代（約1万6000年前から3000年前）の遺跡が多く発見されました。主にカルデアの外側の縁の上部と中央に見られるこれらの遺跡は、クレーター内の領域が広い湖で覆われていたことを示しています。湖が消えた後、その地域は広く草原になりました。人々はまもなく、この平らな土地に稲作、農業、および牧草地のために住むようになりました。草原は、野焼きや伐採、放牧によって長年にわたって維持されてきました。

古くから、この地に住む人々は阿蘇火山を崇拝してきました。山への信仰のための神社が多く建てられ、豊かな穀物収穫や健康的な生活、自然災害からの保護を願う儀式や祭りが執り行われました。今でも、春の火振り祭りや夏のおんだ祭は、豊穰を祝うために執り行われています。また、秋の流鏝馬祭りは豊作を、冬の護摩木祭りは今後の健康を願って執り行われています。

阿蘇の偉大な自然の美しさと歴史は、詩人や小説家にも影響を与えてきました。夏目漱石、落合直文、徳富六花などのような日本を代表する作家は、作品の中で阿蘇の美しさについて言及しています。